

■道行くみなさんへ

私は福島県三春町に住むものです。東日本大震災から早くも2年が経とうとしています。

震災に伴って起きた『福島原発事故』はみなさんの記憶の中にまだ存在しているのでしょうか？

事故を起こした4つの原子炉からは、今も毎日2億4000万ベクレルの放射性物質が空中に放出されています。

最近では再び地震も頻発し、再度原発が爆発するのではないか…と不安の中に暮らしています。

一昨年暮れに前野田首相は「収束宣言」をしましたが、事故はひとつも終わっていないのです。

時が経つにつれて、たくさんの問題が現れ、深刻な状況になっています。

大変な被曝の危険の中で働く原発作業員の危険手当の搾取や16才の少年が除染作業に携わっていた事実。

福島県民健康調査の検討委員会に存在した「秘密会」の暴露。

情報開示請求をしなければ本人の手に入らない甲状腺検査の詳しいデータ。

復興の名のもとに風化させられていく事故。進まない賠償、効果が期待出来ない除染…そんな中に子どもたちは、低線量被曝を受けながら、毎日暮らしているのです。フクシマは終わっていないのです。

あなたの問題としてフクシマを忘れないで下さい。

フクシマを助けて下さい。

第二、第三のフクシマを作らないために、今あなたにできる行動をして下さい。お願い致します。 武藤類子

■道行く人へ、おなじ国に住むあなたへ

『あなたの故郷はどちらですか？

私の故郷は福島です。

あなたの故郷はお元気ですか？

私の故郷は、こらえています。

どうぞ、あなたの故郷をお大事に』

私の大好きなふるさと福島は、美しくて懐かしくて、今までもこれからも、ずっと大事です。

育ててくれた親も、一緒に育った兄弟姉妹もいとも、世話になった叔父叔母も、幼なじみの友達も、次世代の子どもたちも、食べて育った米も野菜も、海の幸山の幸も、すべて大事です。

故郷は、どこであれ、吸う空気がどこかよそとは違うものではないのでしょうか？

成人して離れて以来長い間、故郷とそこに暮らす人々は、私の心の支えでした。

一生懸命頑張ってもどうしようもなくなってしまった時、ふっと元気をもらいに帰る、そんな頼みの綱

でした。

誰にも何にも言えなくても、故郷の山並みと田園風景を眺め、人々のおくに言葉をぼんやりと聞いては、また日常に戻っていったものです。

ずうっと変わらずにあると無意識に信じていた、そんな支えでした。

道行く皆さん、脅かされてみないと、本当にはその大事さがわからないものなのかもしれません。

残念ながらフクシマのヒバク被災は、今もちょっとも過去形ではありません、収束なんかしていません。そのことをおわかりいただきたい。フクシマの傷の回復を助け、再来を防ぐことは、あなたの故郷を守ることだと思うんです。

どうかあなたの故郷をお大事に！

それには、フクシマの軽視や風化はだめなんです。フクシマを見て見ぬふりをするのは、あなたの故郷を危険にさらすことになるから。

道行く皆様、どうか、大事なものを失わないでください。

私たちもがんばります。

谷田部裕子

■子どもの未来考えて

雪降るなかで考えた。放射能物質が舞う福島。毎日新聞の掲載=福島県以外は全県0.1以下、福島は今日も0.6マイクロシーベルト毎時。この数字、大気中の環境放射線量(文科省発表の推定値)。

意識して見なくてもこの違いは一目瞭然。除染・復興のことは遊びで、さも元の福島県に戻ったような報道で、福島に住んでいる人でさえ錯覚を起こしている。大気中ではなく地上1mでも0.5~1.0以上の数値の中で生活している子どもたちが沢山いる。

もう子どもたちは居住してはいけない数値に。

本当のプロの放射能専門家たちは口を揃えて「直ぐに避難させなさい！」と言っている。「やむを得なきゃ放射能物質の少ない場所へ保養を！」

こんな簡単そんなことでもできない家庭もある。

なぜ私がこんなことを言っているのか、将来の子どもたちが病気になる可能性が高くなることと、もうあの東電福島第一原発事故が撒き散らした『放射能物質』は福島だけの問題ではなくここ東京も決して安全ではないことを意識して欲しいからです。

福島県郡山在住 橋本あき



福島の声を不定期で街頭配布中です。
読んでいただきありがとうございます☆